

飯田市スポーツ推進計画第2次改定(概要)

1. 目的

飯田市スポーツ推進計画は「スポーツを通じて人と地域が輝く社会（まち）飯田」を基本理念として平成29年に策定された。本年度末の第1次計画の計画期間終了に伴い、子どもたちの体力低下、働き盛り世代の運動不足、健康・体力維持のための習慣的な運動の必要性といったこれまでの課題に加え、情報通信技術を活用した新たなスポーツ活動の実施（リモートスポーツなど）や高速交通網の整備後に向けたスポーツの展開等の新たな課題を踏まえ改定する。

2. 計画の位置づけ

「いいだ未来デザイン 2028」「飯田市教育振興基本計画」のスポーツ分野の個別計画として、今後のスポーツ推進のための基本計画・基本目標等の展開について明らかにするもの。

3. 計画期間と枠組み

計画期間：令和3年度から令和6年度までの4年間

基本理念：スポーツを通じて人と地域が輝く社会（まち）飯田（前計画を継承）

基本目標：以下の6つ（下線部は今回の改定）

- 基本目標1 スポーツによる健康・体力の向上
- 基本目標2 競技力の向上
- 基本目標3 スポーツを支える人材の発掘・育成
- 基本目標4 スポーツを通じたコミュニティづくりと交流の拡大
- 基本目標5 障がい児・者と一緒楽しめるスポーツの推進
- 基本目標6 スポーツ施設の整備・充実

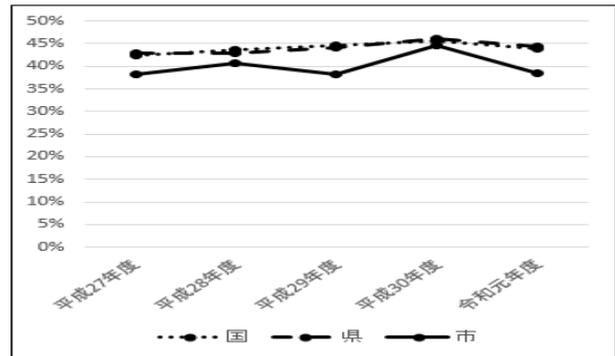
4. 第1次計画の総括と課題

- 春の飯田やまびこマーチや秋の風越登山マラソン大会、月いちウォークなどのイベントを、多くのボランティアの協力を得て実施してきた。飯田やまびこマーチの参加者は増加傾向にあり、ここ数年は4,500人前後で推移するとともに、飯田市民の参加者数も増加しており平成31年度は全体の85%を占めるまでになった。
- 運動神経系の発達に有効であるコーディネーショントレーニングを保育園や小学校で実施。市内の小中学校では各校独自の一校一運動を実施しており、体力の向上に努めてきた。
- 中学生が多様なスポーツ活動を行うことができるよう、飯田市スポーツ協会と共に各競技団体の協力を得て「全市型競技別スポーツスクール」を13種目実施。
- 年齢や障がいに関わらず誰もが取り組めるワンバウンドふらば～るバレーや囲碁ボールなどのニュースポーツを始めとしたコミュニティスポーツが、各地区の公民館やスポーツ推進委員を中心に推進され、コミュニティの醸成に役立っている。
- 中央道沿線都市親善スポーツ大会への参加が三遠南信圏にも広がるなど、三遠南信圏域においても競技スポーツを通じた交流が進んでいる。
- 飯田市総合運動場陸上グラウンドを令和元年度に大規模改修し、陸上2種公認競技場としての規格を維持。アクアパーク50mプールに観覧席を設置し大会実施の利便性を高めた。

KPIから見る現状

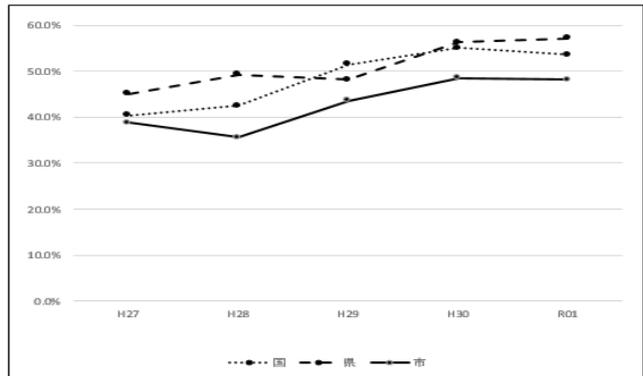
(1) 子どもの体力・運動能力(全国体力・運動能力、運動習慣等調査より)

- 総合評価上位(A及びB)の割合は平成28年度の38.1%から、令和1年度は38.5%と上昇した。
- 全国値との差についても、平成29年度の6.5ポイントから1.2ポイント縮まったが全国値には届いていない。



(2) 成人の日常的なスポーツ習慣(体力・スポーツに関する世論調査、飯田市市民意識調査より)

- 平成29年度43.6%、令和1年度48.2%と増加し、目標値である45%を達成し、スポーツが日常生活に定着していることがうかがえる。(なお、調査方法や調査内容が異なるため全国値は参考)
- 一方、4割程度の市民はスポーツを年に数回しか行わず、二極化が見られる。



次期計画に向けた課題

○年代や発達段階に応じた適切なスポーツ環境の整備

子どもの体力・運動能力や成人のスポーツ習慣の定着に一定の成果があるものの、倒れる際に手のでない子どもや、体力測定において巧緻性を表す「ボール投げ」の記録の低下が見られるなど課題もあり、乳幼児期から高齢者まで、年代や発達段階に応じた適切なスポーツ環境の整備が引き続き求められる。

○多様化するスポーツニーズへ対応した適切な指導

競技力向上の指導力、子どもをスポーツ好きにさせる指導力、運動能力を高める指導力、地域コミュニティでの指導など、指導者に求められているニーズが多様化している。アスリートを目指す選手については、練習環境や指導環境の整備に併せて切れ目なくスポーツ活動ができる体制づくりも必要。

指導者講習会等の実施や資格取得を飯田市スポーツ協会と共に促進しているが、当地域においてスポーツ指導を中心に生活することは難しいこともあり参加者が伸び悩んでいる。

○公共交通網の整備後のスポーツ振興策の研究不足

今後のリニア中央新幹線や三遠南信自動車道開通を見据えた、大都市とのアクセスの利便性を生かした地域振興について、スポーツ振興の立場からの研究が不足している。公認競技場としての陸上競技場のメリットを生かすなど、既存施設の利用増加も図る必要がある。

○スポーツ施設の計画的な維持・改修・新設

社会体育施設や学校開放施設等で日々多くの市民がスポーツを行っているが、多くの施設が築30年を超えてきており、老朽化や機能低下がみられる。

○スポーツ文化の醸成

スポーツ文化が多くの市民の間に醸成され根付くことで、計画の理念に沿った6つの基本目標が一層に推進されることから、「スポーツ文化」を意識した取組みを全体として進めることが必要であり、市民意識調査の項目に追加するなど、把握の方法についても検討する。

5. 改定の方向性

(1)次期計画期間で重点的に取り組む事項

ア 子どもの運動能力を総合的に高めるための支援

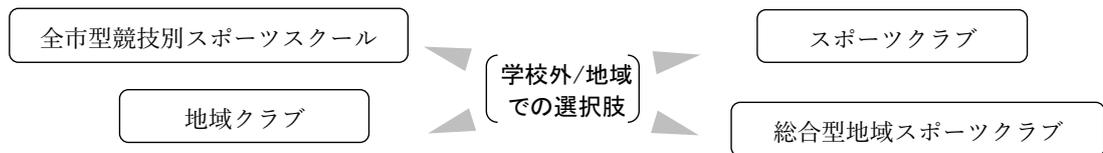
- ・ゴールデンエイジ期の子どもに対し、運動能力向上プログラムを拡大実施する。
- ・コーディネーショントレーニングの指導者を育成する。(保育士、幼稚園、学校教職員等)

イ 指導者育成と競技力の向上

- ・競技者の将来を見据えた指導ができるよう、資質向上のための指導者研修等を実施する。
- ・中高生が、競技力向上のために自ら考えて練習を行うための意識改革を行う。

ウ 中学生期のスポーツ活動の充実

- ・生徒数減少に伴う学校部活動数の減少や運動部加入率低下等が進む中、学校外/地域において様々なスポーツ活動ができるよう選択肢を充実させる。



エ 公共交通網の整備後のスポーツを通じた交流への対応

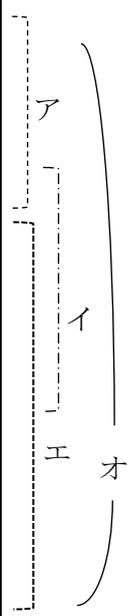
- ・アクセス圏域の拡大に対応したスポーツ交流の拡大について研究を行う。
- ・スポーツ合宿や大会の誘致などによるスポーツ施設の利用増加を図る。

オ スポーツ施設の維持・充実

- ・利用者のニーズに沿って、安心安全にスポーツ施設が利用できるよう維持・管理する。
- ・スポーツ施設周辺環境の整備により、使いやすい施設をめざす。
- ・芝生グラウンドなどの高機能スポーツ施設について南信州広域連合等との検討を行う。

(2)年代別のねらいと重点的に取り組む事項

年代等	ねらい等
幼少期	運動神経発達プログラムを実施し、身体の動かし方の習得力向上を図る。 ・外遊び ・身体を使うさまざまな動き ・神経系発達プログラム
小学生期	運動神経発達プログラムを実施し、動きの習得能力向上を図る。 ・外遊び ・いろいろなスポーツの体験
中学生期 高校生期	多様な競技スポーツと適正な活動により行うことでバランスの取れた身体発達を図る。 ・多様な競技スポーツ ・適正な指導と適正な活動時間
成人	競技力向上に加え、仲間づくりや、生涯スポーツを図る。 ・競技スポーツ ・生涯スポーツ
(高齢者)	スポーツを通じた健康で豊かな生活づくりを図る。 ・生涯スポーツ ・軽スポーツ
身体障がい児・者	スポーツによる自己実現と、障がいの理解や偏見の解消を図る。 ・軽スポーツ ・競技スポーツ



6. 具体的施策と KPI

★は重点的に取り組む事項

取組事項	内容と数値目標
★運動能力を高めるプログラムの実践と普及	◇保育園・幼稚園等にてコーディネーショントレーニングプログラムを実施する。 ◇園児への実践と保育士・教諭への普及を図る。 目標値【実施施設数 4 → 6 以上】 実施者【行政、スポーツ団体】
	◇コーディネーショントレーニング講座を開催する。 ◇コーディネーショントレーニングを普及する。 目標値【実施 年0回 → 1 回以上】 実施者【行政、スポーツ団体】
★競技力の向上	◇指導者研修により、効率的・合理的な指導力を向上させる。 ◇指導者の資質向上を図る。 目標値【指導者研修等の実施 年1回(維持)】 実施者【スポーツ協会、各競技団体】
	◇中高生競技者へ研修等を実施する。 ◇中高生競技者の意識改革を図り、主体的な活動による競技力向上を目指す。 目標値【研修会等の実施 年0回 → 1 回以上】 実施者【スポーツ協会、各競技団体、中学校・高校】
指導体制の充実	◇指導者研修等を実施する。 ◇幅広いニーズに対応できるよう指導者の資質向上を図る。 目標値【研修会等の実施 年1回 → 年2回以上】 実施者【スポーツ協会、競技団体、スポーツ推進委員】
スポーツを支える人材の発掘・育成	◇スポーツイベントのスタッフにボランティアを募集する。 ◇スポーツを支える人材の確保を行う。 目標値【スポーツイベントの実施 毎年2回以上(維持)】 実施者【行政、スポーツ協会、市民】
★多様なスポーツ環境の充実	◇全市型競技別スポーツスクールなど、多種目の競技ができる環境を整備する。 目標値【全市型競技別スポーツスクールの種目数 13 → 16】 実施者【行政、スポーツ協会、競技団体、市民】
スポーツを通じたコミュニティの醸成	◇ニュースポーツ講習会を実施する。 ◇スポーツを通じたコミュニティの育成を図る。 目標値【ニュースポーツ講習会の実施 毎年1回以上(維持)】 実施者【スポーツ推進委員、公民館】
障がい児・者と楽しむスポーツの推進	◇障がい児・者と一緒にスポーツを行う。 ◇障がい児・者スポーツの普及と理解を深める。 目標値【障がい児・者スポーツクラブへの協力 年5回以上(維持)】 実施者【スポーツ推進委員、障がい者関係団体】

情報通信技術を利用したスポーツ活動の展開	<p>◇情報通信技術を利用した新たなスポーツの展開（リモートスポーツなど）を推進させる。</p> <p>◇新たなスポーツ活動の展開について理解を深める。</p> <p>目標値【情報交換・情報共有の実施 年0回 → 1回以上】</p> <p>実施者【行政、スポーツ協会、競技団体】</p>
★公共交通網の整備後のスポーツを通じた交流への対応	<p>◇アクセス圏域の拡大に対応したスポーツ交流を研究する。</p> <p>◇リニア、三遠南信道の開通後のスポーツ交流の拡大に備える。</p> <p>目標値【目標数値なし】</p> <p>実施者【行政、スポーツ協会、競技団体】</p>
	<p>◇スポーツ合宿や大会等の誘致を行う。</p> <p>◇スポーツ施設の利用拡大・増加を図る。</p> <p>目標値【誘致活動 年0回 → 年2回以上】</p> <p>実施者【行政、スポーツ協会、施設管理者】</p>
★スポーツ施設の維持・充実	<p>◇利用者ニーズにあわせた施設の維持・管理を行う。</p> <p>◇安全安心なスポーツ施設の維持・管理により、利用者の満足度を向上させる。</p> <p>目標値【利用者ニーズ調査 毎年1回以上(維持)】</p> <p>実施者【行政、スポーツ協会、競技団体】</p>
	<p>◇高機能スポーツ施設についての検討を行う。</p> <p>◇この地域にふさわしいアリーナ像をつくる。</p> <p>◇芝生グラウンドについての研究を進め、導入する。</p> <p>目標値【目標値なし】</p> <p>実施者【行政、スポーツ協会、競技団体】</p>
利用者ニーズに沿った施設の運用改善	<p>◇施設の利用方法の改善を行う。</p> <p>◇施設予約のデジタル化の検討など、利用者満足度向上を図る。</p> <p>目標値【利用者ニーズ調査 毎年1回以上(維持)】</p> <p>実施者【行政、スポーツ協会】</p>

7. 改定に至る経緯

- 4～7月 教育委員会、社会教育委員会、スポーツ推進審議会における振り返り
- 7～10月 関係団体からの意見聴取・意見交換
- 飯田市スポーツ協会、飯田市スポーツ推進委員、飯田市スポーツ少年団、飯田市教頭会、飯田市公民館長会、飯田市スポーツ少年団、飯田市婦人会、飯伊ママさんバレーボール連盟、長野県ウォーキング協会、長野県障がい者スポーツ協会 など
- 12月 市議会社会文教委員会、スポーツ推進審議会、パブリックコメント
- 2月 スポーツ推進審議会(パブリックコメントを踏まえた審議)
- 3月 教育委員会定例会(計画案の決定) 市議会全員協議会(計画の報告)

【飯田市スポーツ推進審議会委員名簿】

大蔵 豊	(公財)飯田市スポーツ協会(専務理事)	羽生 功樹	飯田市スポーツ少年団(本部長)
小池 智津	飯伊ママさんバレーボール連盟	平栗 晃	卓球
伊藤美佐子	飯田市教頭会(小学校)	大澤 忠史	飯田市教頭会(中学校)
三石 義弘	飯田市スポーツ推進委員協議会	森本美保子	飯田市連合婦人会
富田 泰啓	長野県ウォーキング協会	羽場 竜也	飯田市公民館長会
中田 一雄	長野県障がい者スポーツ指導者協議会		